

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

社会学部では、体系的・段階的・自律的学修を志向した4つの基本指針のもと、教養・専門教育に即して充実したカリキュラムが提供され、また、その教育成果に対する検証もきめ細やかに行われるなど、意欲的に教育課程・教育内容の向上への取り組みがなされている。内容の豊富さと履修の自由度の高さを特長とする7コース8プログラム制についても、履修選択上の複雑さを伴うという課題認識の下、2016年度に発足した教学改革・人事構想委員会において、学科ごとの特徴をより明確にして学科とコースの関連性を整理し直した新カリキュラムを決定し、専門教育の一層の深化を図っている点は高く評価できる。2018年度からの新カリキュラムの実施に向けては、前記委員会に加え、学科ごとに学科カリキュラム運営会議を設けることにより、細部にわたる準備作業が進められており、次年度における円滑な導入が期待される。

学生に対する履修・学習指導、学習成果の把握についても充実した取り組みがなされている点において高く評価できる。今後は新カリキュラム導入に伴って、その周知の徹底、履修指導における格別な配慮といった、学生の混乱を極力回避する方策を整えるとともに、導入効果の把握・分析・共有の仕組みづくりや学習成果の確認方法の再検討への取り組みに期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

大学評価委員会の評価については、これまでの本学部の取り組みの方向性がおおむね評価されているものと判断し、現状の方向性を維持しつつ、引き続き本学部における教育研究の質の向上に向けて努力していく。

本学部では2016年度から2017年度にかけて教学改革・人事構想委員会を設置し、カリキュラム改革と教員人事の中期計画策定に取り組んで来た。2018年度は新カリキュラムの実施初年度にあたり、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有するために、各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催する。

学生に対しては、4月の履修登録締め切り前に複数日にわたって「教員による履修相談会」を開催し、学生の疑問・不安に答えることで、新カリキュラムへのスムーズな導入をはかっている。また、2年生以降のコース選択を的確に行えるように、1年生秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施する。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学部は、2016年度から2017年度にかけて大幅なカリキュラム改革の検討を進めてきた。教学改革・人事構想委員会を設置し、カリキュラム改革と連動するかたちで教員人事についても中期計画を策定し、新カリキュラムを2018年度からスタートさせたことは高く評価できる。

4月の履修登録締め切り前に「教員による履修相談会」を開催したり、秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施したりすることによって、学生の混乱を防ぎ、新カリキュラムへの移行を円滑なものにするための対策もしっかりと練られている。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

「自由と進歩」という法政大学の建学の精神を基礎にして、本学部は1952年にわが国の私立大学初の社会学部として創立された。創立以来、社会学部はそれぞれの時代状況と向き合いながら、多様な社会現象が生じる構造を解き明かし、社会的課題の解決を探究することによって、より良い社会づくりをめざしてきた。

社会学部の教育理念は、現代社会の構造と動態、社会に生きる人々の営みの様態を総合的に解明・把握し、社会的課題の解決を探究する能力を持った人材を育成することである。社会学部での学修を通して、ローカルからグローバルまでさまざまな社会現象や社会問題に敏感になり、それを観察・分析・理解・伝達する力を身につけるとともに、より良い社会の理念とそれを実現する方法を提言できる人材を育成することを目指す。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

社会学部の教育方針は、学生が次のような力を身につけるカリキュラムを構築し、提供することである。

1. 様々な社会現象に積極的に関心を持ち、自らテーマを設定し、それに関する知識・データを科学的な方法によって

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

幅広く収集・分析できる。

2. テーマの探究に必要な論理的思考力と分析能力、その成果の提示に必要な論文構成能力やメディア技術を駆使した表現能力、外国語の運用能力などが身につけている。

社会学部の教育目標は、以上のような学修に基づいて、複雑な社会の構造と其中の人々の営みを観察・分析・理解・伝達する力を身につけた人材、社会をより良くする方法を考え、提言できる人材を育成することである。

これに加えて、各学科の教育目標は以下の通りである。

1. 社会政策科学科：社会諸科学を複合的に用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析し、それを解決するための政策づくりを、市民の視点で担える人材を育成する。
2. 社会学科：社会学の理論と方法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることを通して、よりよい社会と人々の生き方を構想できる人材を育成する。
3. メディア社会学科：関連諸科学の知見を踏まえて、メディアと社会の関係を分析し、最新技術によるメディアの表現と設計の能力を有する人材を育成する。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。

はい いいえ

②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。

はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

社会学部では、2018年度からの新カリキュラム設置に際して、学部および各学科の教育理念・目的を再検討した。学部の教育理念・目的については、学部教授会で審議し承認を得た。各学科の教育理念・目的については、各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」において、大学および学部の教育理念・目的に沿う形で見直しを行った。

今年度以降も、教授会や年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、理念・目的の検証を継続して行く。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。

はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。

(～400字程度まで) ※具体的な周知・公表方法を記入。

・2018年度社会学部履修要綱

・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen.html> (社会学部HP)

・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/tokushoku.html> (社会学部HP)

・<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000267201008.html> (大学ポータル)

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部の理念・目的が明確に設定されている。新カリキュラムの導入に際して、各学科に所属する教員全員が参加するかたちで「学科カリキュラム運営会議」を開き、学科や学部の教育理念・目的を再検討し、最終的には学部教授会において、社会学部としての新しい理念・目的を審議し、承認を得ている。新たに設定された理念・目的は、学則に明示されるとともに、2018年度の社会学部履修要綱や社会学部のウェブサイトに掲載されており、在学生だけでなく、社会学部への入学を考える受験生やその保護者たちにもしっかりとアピールが行われている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

【構成】学部専任教員3名

【開催日】(1)5月15日 (2)3月5日

【議題】(1)2016年度の年度末報告および大学評価委員会評価結果について、2017年度自己点検・評価シート原案について
(2)2017年度の年度末報告について

(2)長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3)問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部専任教員3名からなる質保証委員会を設置しており、2017年度には5月と3月に2回の委員会を開催し、前年度の大学評価委員会による評価結果の検討や、2017年度の自己点検・評価シートの原案の検討などを行っている。概ね適切に質保証のための作業が行われていると判断される。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1)点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

社会学部では、所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（社会学）」を授与する。
全学科にわたり必要とされる能力は、以下の通りである。

1. 社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。
2. データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。
3. 問題解決の方法を構想することができる。
4. それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。

これに加えて、学科ごとに必要とされる能力は、以下の通りである。

1. 社会政策科学科

- (1)経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学などの知識を身につけている。
- (2)社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。
- (3)課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。

2. 社会学科

- (1)社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。
- (2)社会調査をはじめとする経験的手法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることができる。
- (3)社会学の理論と方法を通して、より良い社会と人々の生き方を構想できる。

3. メディア社会学科

- (1)メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。
- (2)メディアと社会の関係を、メディア研究の手法によって分析できる。
- (3)最新のメディア技術を利用して、社会的諸課題の解決に寄与するメディアの表現と設計ができる。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

社会学部では、学士資格に相応しい専門的知識を学修し、幅広い視野と総合的な判断力を身につけることができるように、次のような指針のもと教育課程を編成する。

1. 4年間一貫教育：大学4年間を一貫した体系のなかで捉える。
2. 3つの科目群：授業科目を、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群に体系的に整理する。
3. 3つの教育段階：3つの科目群を、「入門期」（1年次）、「能力形成期」（2～3年次）、「総仕上げ期」（4年次）という3つの教育段階に沿って段階的に編成する。
4. 学科別カリキュラム：各学科の「学科専門科目」を、「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」、「コース専門科目」に体系化し、集積的な学修を可能にする。「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」により、学科での学修に必要な理論と方法を身につけさせる。同時に、専門分野あるいは対象領域によって区分された「コース専門科目」を学修させることで、学生各自の関心を掘り下げさせる。各学科には次のコースを設ける。

【社会政策科学科】「企業と社会」、「サステナビリティ」、「グローバル市民社会」

【社会学科】「人間・社会」、「地域・社会」、「文化・社会」、「国際・社会」

【メディア社会学科】「メディア表現」、「メディア分析」、「メディア設計」

5. 少人数教育：「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」の学修とあわせ、1年次の基礎演習と2年次以降の専門演習において、少人数での教育を徹底する。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。

- ・2018年度社会学部履修要綱
- ・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen.html>（社会学部HP）
- ・<http://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/tokushoku.html>（社会学部HP）
- ・<http://up-j.shigaku.go.jp/department/category01/00000000267201008.html>（大学ポータル）

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S A B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

社会学部では、2018年度からの新カリキュラムを構築するために、教学改革・人事構想委員会を設置し、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の再検討を行った。今年度以降も、教授会や年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、各項目の検証を継続して行く。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2018年度から実施予定の新カリキュラムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を設置し、学期中に隔週で新カリキュラムの検討を行うとともに、学科科目担当の教員集団とも随時意見交換を行い、全体的な新カリキュラムについては教授会において承認するという手続きをとった。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・教授会議事録
- ・教学改革・人事構想委員会議事録・資料

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2018年度から導入した新カリキュラムでは、社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように組まれている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

応している。

1 年次に履修する「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。

以上を基礎にして「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。

【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

社会学部では、2018 年度から導入する新カリキュラムを検討する際に、各学科が求める能力の習得を尊重しながらも、「学科カリキュラム」に「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」という学部共通の体系性を持たせるように配慮した。

【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等

- ・2018 年度社会学部履修要綱
- ・2018 年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱巻末に掲載）
- ・2018 年度社会学部カリキュラムマップ（事務課窓口にて閲覧可能）

② 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(~600 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2018 年度から導入した新カリキュラムは、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という 3 つの科目群に体系的に構成されている。その上で 4 年間の一貫教育システムを採用し、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。

第一期は、1 年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの 1 年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2 年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。

第二期は、2 年次・3 年次の 2 年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。

第三期は、4 年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で 4 年間学んだことの集大成を行う。

【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

社会学部では、2018 年度から導入する新カリキュラムを検討する際に、「学部共通カリキュラム」と「学科カリキュラム」という 2 つの柱の下で、「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」という体系を整理し直した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018 年度社会学部履修要綱

③ 幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

「総合科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」(A 群)や「国際・社会科学系科目」(C 群)に加えて、「自然科学系科目」(B 群)についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」(D 群)を設置している。

【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

2018 年度から導入する新カリキュラムを検討する際に、「視野形成科目」を構成する科目についても一部見直しを行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018 年度社会学部履修要綱

④ 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S A B

(~400 字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」である。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、教育すべき項目を春・秋学期に分けきめ細かい教育を行っている。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする所属学科ごとの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目である。いずれも本学部の4年間一貫教育の中の入門期に位置づけられる。

「基礎演習」は、春学期に大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学び、秋学期にみずからの研究のためのテーマや問題の立て方、論文の書き方等を中心に学ぶ。所属学科ごとの入門科目では、2年次および3年次の知的技能・研究手法修得期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2018年度から導入する新カリキュラムを検討する際に、所属学科ごとの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目の見直しを行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

語学では「学びたい人が自由に学ぶことができる」L字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目(Basic English 1・2、諸外国語初級A・B、日本語1・2・3)で「基本的なところをしっかりと」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。

また、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム(SAプログラム)制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。

また、対象領域ごとにコースを編成した社会政策科学科と社会学科には、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置している。これらのコースに設置された科目は全学科の学生が履修可能である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

・2017年度 SAパンフレット

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育は、「職業社会論」、実務経験のある教員による「特講(インターンシップ)」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」(D群)が設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。 S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・教務委員会を中心とした履修登録期間(4月)の全学年対象「教員による履修相談会」(複数日)
- ・成績不振学生を対象とする教員による個別面談(6月実施、2015年度より)
- ・各コースの代表者によるコース選択のためのガイダンス(11月末~12月初旬)
- ・コース選択時期(12月上旬)の1年生対象「教員によるコース選択相談会」(複数日)
- ・基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談(随時)

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

②学生の学習指導を適切に行っていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

本学部では1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者が否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。

2015年度より、成績不振学生に対して教員による個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底する一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行錯誤を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業外になされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部シラバス

④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。 はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

1年次 40単位 各学期 22単位
 2年次 40単位 各学期 22単位
 3年次 40単位 各学期 22単位
 4年次 49単位 各学期 26単位

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

- ・教職科目、資格関連科目については、上限を超えて履修登録できる。
- ・成績優秀者については、上限単位数を8単位引き上げる

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。 S A B

【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・「社会を変えるための実践論」：複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加。
- ・「社会学への招待」：教員による集団指導。
- ・「社会調査実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。
- ・「メディア社会学実践科目」：各コースの「理論」「技法」科目を基礎に学生が行うメディア表現・分析・設計。
- ・実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度の設置。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。

- ・語学については、効果的な語学教育に適した均質な学習環境を提供できるよう配慮している。
- ・基礎演習については、初年次教育が円滑に進むようクラス編成に配慮している。
- ・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安を教授会で申し合わせている。
- ・実習科目（政策データ分析実習、政策フィールドワーク実習、社会調査実習、メディア社会学実践科目、クリエイティブ
- ・ライティング、ニュース・ライティング）については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。
- ・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度社会学部履修要綱

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・専門演習について（教授会配布資料）	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・執行部と教務委員会による全シラバスチェックを実施し、修正が必要と認められた教員への連絡を実施。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2018年度社会学部講義概要	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・学生による授業改善アンケートに学部独自項目として「授業はシラバスに沿って行われていましたか」を追加。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・学生による授業改善アンケート（社会学部）	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 ・執行部と教務委員会による、GPCA データ・評価比率データを活用した成績分布の検証（この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている）。 ・「A+」評価に関する学部独自基準（講義科目は「上位10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目は「上位20%程度」を上限とする）を設定し、評価の厳密性を確保。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・A+評価基準について（社会学部独自基準）	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）米取り組み概要を記入。 編入学時における他大学等における既修得単位の認定は、学部が設定する基準（「編入学者および転籍・転部者の単位認定・換算基準」）に基づき実施している。具体的には、教務担当教授会主任と事務課職員が双方のシラバスを照合し、内容が適合すると思われる本学部開講科目の有無を確認の上、定められた単位数の限度内で単位認定する認定原案を作成し、これを教務委員会で検討・承認後、教授会での確認・承認を経て認定を確定させるという手続きをとっている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・社会学部 単位認定・換算基準（編入学者・転籍・転部者および他学部からの継続学士入学者）	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 厳格な成績評価を実施するために、本学部では「A+」評価について、講義科目については「上位10%程度」、「演習」「外国語」等の少人数科目については「上位20%程度」を上限とする学部独自の基準を設けている。 このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCAデータを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・A+評価基準について（社会学部独自基準）	
④学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※簡条書きで記入。 ・卒業時に学部独自のアンケートを実施し、就職・進学状況を把握している。 ・就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、教授会で共有している	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・卒業生アンケート（社会学部）	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※簡条書きで記入。 ・データの把握主体：執行部	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>・把握方法：成績分布については、GPA を指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。</p> <p>・データの種類：学生別 GPA をケースとした個票データ、学科別・学年別・学部全体の集計データなど。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいべき「演習 3 (卒業論文)」の履修率は毎年度 6 割を超えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。今後、GPA の有効活用など学習成果を測定するための他の方法も検討する予定である</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・教授会資料</p>	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (取り組み例：アセスメント・テスト、ループリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</p> <p>・卒業時に学部独自のアンケートを実施し、学部教育に対する卒業生の評価を把握している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・卒業生アンケート</p>	
④学習成果を可視化していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入 (取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。</p> <p>・「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信 (毎年 11 月)。</p> <p>・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。</p> <p>・調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。</p> <p>・メディア実習科目における作品の公開。</p> <p>・優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。</p> <p>・そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など。</p>	
<p>【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・専門演習の「ゼミ論文集」「報告書」刊行に対する助成金制度を始めた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2017 年度優秀卒業論文集</p> <p>・2017 年度社会調査実習報告書 (開講クラス別に刊行)</p> <p>・2017 年度政策研究実習報告書 (開講クラス別に刊行)</p>	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会 (各学期末)</p> <p>・英語科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会 (春学期半ば)</p> <p>・諸外国語・情報実習科目：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会 (年度末)</p> <p>・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ (秋学期開始時)、調査実習実施に付随する問題の共有と解決 (随時)、報告書の回覧 (年度末)</p> <p>・学科カリキュラム運営会議での情報交換 (春・秋学期各 1 回開催)</p> <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2017 年度春（秋）学期・基礎演習担当教員懇談会の開催について」 ・「2017 年度 諸外国語科目担当者打ち合わせ会 記録」	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。 ・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2018 年度社会学部シラバス	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
2018 年度から実施予定の新カリキュラムを検討するために、教学改革・人事構想委員会を設置し、学期中に隔週で新カリキュラムの検討を行うとともに、学科科目担当の教員集団とも随時意見交換を行い、全体的な新カリキュラムについては教授会において承認するという手続きをとった。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>学位授与方針については社会学部全体としてのものだけでなく、社会学部に属する 3 つの学科がそれぞれの学科に即したより詳細かつ具体的な学位授与方針を明確に定めている。また学生たちが 4 年間で、学位授与方針に定められた水準の学習成果を達成できるように、教学改革・人事構想委員会や教授会でカリキュラム改革のための検討を進め、2018 年度に、3 つの科目群と 3 つの教育段階を組み合わせた体系的な 4 年一貫教育を行うための新カリキュラムを導入した。</p> <p>新カリキュラム導入後、教授会や「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切性や、教育目標、学位授与方針との関連性の検証が継続して行われている。</p> <p>なお、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針については、大学ホームページ等で周知・公表されており適切である。</p>
--

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

<p>社会学部は 2017 年度にカリキュラムの大幅な見直しを行い、2018 年度に新カリキュラムを導入した。新カリキュラムにおいては、順次性・体系性が大幅に向上し、社会学部の教育理念や目標に適した教育課程・教育内容が提供されている。新カリキュラムにおいては、社会学部の科目は「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」の 3 つの科目群に分類されている。各学科が開設する「学科専門科目」は、「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の 4 つに分類され、年次ごとの順次性が明確に示されている。また「総合科目」の中の「視野形成科目」群には、幅広く深い教養と総合的な判断力や豊かな人間性を培うのに適した科目が開設されている。「総合科目」の中には「キャリア形成系科目群」もあり、キャリア教育も適切に提供されている。</p> <p>さらには、初年次専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を開設し、初年次教育・高大接続への配慮も十分になされていることは評価できる。またスタディ・アブロードプログラム制度や長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も設けられており、学生の国際性を涵養するための教育も適切に行われている。</p>

③教育方法に関すること (3.4)

<p>社会学部では、4 月の履修登録締め切り前に「教員による履修相談会」、6 月には成績不振学生を対象とした個別面談、11 月末から 12 月初旬にかけて、コース選択のためのガイダンスや「教員によるコース選択相談会」を行っており、履修指導及び学習指導が非常に充実している。</p>
--

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

学期ごとの履修登録単位数の上限も適切に設定されている。また「社会を変えるための実践論」や「社会調査実習」などの科目において、学生参加型の授業が行われていることも高く評価できる。社会学部には、「政策データ分析実習」「政策フィールドワーク実習」「社会調査実習」「メディア社会学科実践科目」「クリエイティブ・ライティング」「ニュース・ライティング」など実習科目が数多く設置されているが、履修者数が科目の内容に応じて適切な人数になるように十分な配慮がなされている。シラバスの適切性の検証も、執行部と教務委員会による全シラバスチェックが行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

社会学部執行部と教務委員会が、各科目の成績分布の検証やシラバスに「成績評価の方法と基準」が明確に示されているかどうかを確認しており、また「A+」評価が全履修生に占める割合について、学部独自基準を設けて、成績評価の公平性を確保するための努力もしっかりとされている。また学科別、各年別、学部全体について GPA を指標としたデータを構築・分析しており、学習成果を測定するための適切な指標が設定されている。卒業時に学部独自のアンケートを実施し、学部教育に対する卒業生の評価を把握していることも高く評価できる。ただし、成績評価の基準のシラバスへの記載に関しては、改善の余地がある。

他大学等における既修得単位の認定は、学部内規順に基づき適切に行われている。学生の就職・進学状況については、卒業時の独自アンケートのほか、キャリアセンターの情報により把握されている。

学生による授業改善アンケートについては、各教員による教育内容の改善等に活用されている。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
2. 物事を論理的に考察することができる。
3. 自分の考えを的確に表現できる。
4. 入学後の修学に必要な学習意欲や問題関心を有している。
5. 社会現象を多面的にみる態度を有している。

一般入試（A方式、T日程、大学入試センター試験利用入試）では、「国語」「英語」の他、「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」「数学」の試験科目を通して、総合的基礎学力を評価する（上記1～3）。

推薦入試（指定校推薦、付属校推薦、スポーツに優れた者の特別推薦入試）では、基礎学力の一定の評価（上記1～3）を前提に、作文、面接等で学習意欲、問題関心等を評価する（上記4、5）。

特別入試（留学生入試、転・編入試）では、基礎学力と学習意欲、問題関心を確認するとともに（上記1～5）、多様な学生を受け入れることによって、学部の活性化を心がけている。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

歩留まり率の読み違いによって、2016年度、2017年度入試とも入学定員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を超過した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

定員充足率（2013～2017年度） （各年度5月1日現在）

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	742名	742名	742名	742名	742名	
入学者数	733名	773名	736名	917名	854名	
入学定員充足率	0.99	1.04	0.99	1.24	1.15	1.08
収容定員	2,842名	2,884名	2,926名	2,968名	2,968名	
在籍学生数	3,223名	3,183名	3,119名	3,316名	3,441名	
収容定員充足率	1.13	1.10	1.07	1.12	1.16	1.12

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

- ①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均
- ②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集及び入学者選抜については、結果を教授会で報告・議論し、執行部を中心として検証している。とくに入試委員会での議論を受け、入学センター提供の資料や助言をもとに年度毎に検証し、執行部を中心として次年度の方針を決めている。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2018年度入試では、上記の学部教授会および執行部の検討をふまえて査定に留意し、入学定員充足率を0.93倍、収容定員充足率を1.12倍に収めることができた。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・2016年度、2017年度と2年連続で入学定員を大幅超過したことをふまえ、入学センターとも意見交換・情報交換をしつつ、定員管理について適切な対応を検討することができた。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし	
-------	--

【この基準の大学評価】

社会学部では学生募集および入学者選抜の結果について、入学センター提供の資料や助言も参考にして、定期的に検証が行われており、入学定員充足率、収容定員充足率とも適切な水準に保たれている。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

社会学部の理念・目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿って学生を指導し、学生たちの自己探求と社会問題への取り組みを多様な形で促進・媒介・指導することのできる教員を求める。

また教員組織の編制方針は、本学部のカリキュラム・ポリシーに従って、学生への教育責任を果たすことができるよう、教育課程を構成する3段階(第1期から第3期)において、各専任教員がその一翼を担える仕組み作りを行なう。

具体的には以下のとおりである。

- ・第1期である学部教育への入門期では、「入門科目」、「学科共通基礎科目」は原則として専任教員が担当する。その要である基礎演習担当は原則として開講科目数の半分を専任教員が担当する。
- ・第2期では、「学科共通展開科目」「コース専門科目」は、可能な限り専任教員が担当する。また専門演習である演習1と演習2は専任教員が担当する。
- ・大学生活の総仕上げである第3期では、とりわけ卒業論文作成の指導を実質的内容とする演習3は専任教員が担当する。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

【一般規則】

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聴特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用
- ・公募実施細則
- ・専任教員の身分昇格、昇格基準
- ・法政大学名誉教授規程
- ・兼任講師委嘱基準

【採用・昇格の方針】

- ・求める教員像および教員組織の編成方針
- ・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申
- ・人事構想委員会答申

【2017年度の実績】

- ・公募資料
- ・教授会議事録(新規採用 10/20)
- ・教授会議事録(昇格人事推薦 12/5)

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・【学部執行部】学部長(1名:全体統括)、主任(2名:教務・人事主担当+入試主担当)、副主任(1名:学生生活担当)
- ・【学部内の基幹委員会】
 - ・教務委員会(学部長、主任、教務委員で構成され、教務事項全般の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する)
 - ・外国語教育委員会(外国語科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する)
 - ・調査実習運営委員会(調査実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する)
 - ・メディア実習運営委員会(メディア実習科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・情報教育委員会（情報教育科目の運営の基本方針を決定し、教授会に提案・報告する）
 - ・FD委員会（教育改善のためのFD事業の検討・実施・評価等を行い、教授会に提案・報告する）
 - ・学生生活委員会（学修活動の基礎となる学生生活の環境整備等に関する方針を決定し、教授会に提案・報告する）
- 【明示方法】** ※箇条書きで記入。

- ・各種委員一覧（委員会別・教員別）

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・社会学部内規

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

現行カリキュラムは、教授会構成員の専門性を最大限発揮できるよう、その構築段階から組織的に設計されてきた。また、教員の転出、退職に伴う新任採用においても、カリキュラムの維持発展を第一に考えて行っており、カリキュラムと教員組織の対応関係は整合的である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・求める教員像および教員組織の編成方針
- ・視野形成科目とキャリア教育に関する将来構想委員会・答申
- ・2017年度人事構想委員会答申

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部専任教員のうち8割近くが学部と大学院の双方に関与しており、大学院教育との連携は密になされている。また、大学院執行部と学部執行部の意思疎通も適宜行っており、双方の連携が図られている。

大学院への進学を希望する学部生に対しては、内部進学者向けの大学院入試を行い、学部から大学院への一貫した教育と相互の協働を図っている。また、「外書講読」や「原典講読」といった一部科目については学部と大学院の「合併開講」としており、学部と大学院が相互に連携しながら、学部生・大学院生双方の教育にあたっている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度社会学部履修要綱
- ・2018年度大学院履修要綱

2017年度専任教員数一覧

（2017年5月1日現在）

学部（学科）	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
社会	43	18	2	0	63	39	20

専任教員1人あたりの学生数（2017年5月1日現在）：54.6人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

2017年度に設置した人事構想委員会において、学部専任教員の年齢構成を点検し著しい偏りが無いことを確認した。同委員会の答申では、専任教員の新規人事において引き続き年齢構成に留意すべきことを明記した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度人事構想委員会答申

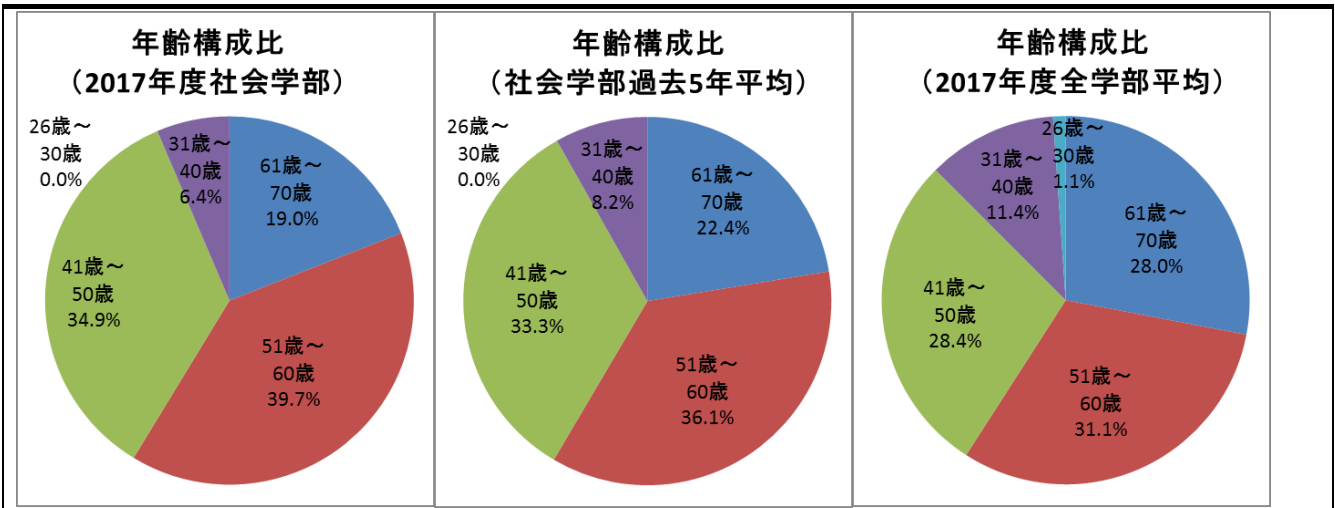
年齢構成一覧

（2017年5月1日現在）

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	4人	22人	25人	12人
	0.0%	6.4%	34.9%	39.7%	19.0%

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。 はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・専任教員招聘規則
- ・専任教員招聘特例措置申合わせ事項
- ・研究助手の採用
- ・公募実施細則
- ・専任教員の身分昇格、昇格基準
- ・法政大学名誉教授規程
- ・兼任講師委嘱基準

②規程の運用は適切に行われていますか。 はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等（非公開）を添付することでも可。

- ・新任教員の募集については、原則公募方式とし、教授会での採用方針や募集方法について十分な議論を行っている。免職については、他校への転出による自己都合退職や定年退職以外で、審議を必要とするような事案は生じていない。
- ・昇格については、資格を有する教員の申請によって、常設の昇格推薦委員会においてその適切性を判断した上で、さらに専門に近い教員による審査委員会を設置して研究業績等を十分に審議し、教授会の承認を得ることにしている。

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S A B

【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。

- ・学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。
- ・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。
- ・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。
- ・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。

- ・FD委員会
- 【開催日】** 4月18日、5月2日、5月30日、6月13日、6月27日、7月5日、7月19日、9月20日、10月11日、10月25日、11月8日、11月22日、12月6日、12月20日、1月17日、1月31日、2月28日、3月14日
- 【場所】** 社会学部棟8階会議室B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、課題・評価）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介 Weeks）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD 推進センターとの連絡調整）、Ⅴ. 今後の課題（学習サポーター・大規模授業アシスタント運用方法の整備・改善、FD 活動の情報共有のための実践的取り組み）

【参加人数】FD 委員 6 名

・基礎演習担当者懇談会

【開催日】(1)7 月 11 日、(2)1 月 9 日

【場所】多摩総合棟 5 階第一会議室

【テーマ・内容】(1)春学期の学生の様子について、基礎演習の今後のあり方について (2)今年度の学生の様子について、基礎演習の Semester 化の運用および結果について

【参加人数】(1)35 名、(2)36 名

・諸外国語関連科目担当者会議

【開催日】3 月 31 日

【場所】多摩総合棟 5 階第一会議室

【テーマ・内容】社会学部語学カリキュラムについて、2016 年度授業のふり返り、2017 年度クラス規模について

【参加人数】23 名（教授会主任 2 名＋専任 4 名＋兼任 17 名）

・情報教育関連コース・プログラム会議

【開催日】9 月 26 日

【場所】多摩総合棟総合棟 5 階役員室付附属会議室

【テーマ・内容】2018 年度導入新カリキュラム進捗状況、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2018 年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の広報と将来構想

【参加人数】5 名（専任 5 名）

・情報教育関連懇談会

【開催日】9 月 30 日

【場所】多摩総合棟 3 階情報講師控室

【テーマ・内容】2018 年度導入新カリキュラムの説明、新カリキュラム進行にともなう兼任講師の担当コマ移行、2018 年度の新入生にむけての情報教育の趣旨・目的の周知、情報教育科目と情報デザインプログラム科目群の将来構想

【参加人数】11 名（専任 3 名）

・調査実習運営委員会

【開催日】4 月 3 日、10 月 10 日、12 月 5 日、12 月 7 日、1 月 17 日、3 月 16 日

【場所】社会調査室（12 月 5 日以降の会議はメールで持ち回り）

【テーマ・内容】(4 月 3 日) 2016 年度実習のふり返り、2017 年度実習運営に関する相談、実習担当者の確認

(10 月 10 日) 新カリ移行に伴う新規開講科目および実習室の整備に関する相談、コース・プログラムガイダンス担当者の確認

(12 月 5 日) 2018 年度社会調査士科目認定申請について

(12 月 7 日) 2017 年度社会調査士資格申請希望者への連絡に関する確認

(1 月 17 日) 2017 年度社会調査士資格申請希望者への指導に関する確認

(3 月 16 日) 2018 年度実習運営委員会の日程調整、2018 年度実習ガイダンス・社会調査士ガイダンスに関する確認

【参加人数】専任教員 6～8 名

・体育科目担当者懇談会

【開催日】(1)7 月 21 日、(2)1 月 19 日

【場所】多摩総合体育館 2 階講師室

【テーマ・内容】(1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理 (2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理

【参加人数】(1)14 名（専任 1 名＋兼任 13 名）、(2)14 名（専任 1 名＋兼任 13 名）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2017 年度 FD 委員会報告書

(2) 長所・特色

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部においては教員の採用・昇格について明確な基準が定められており、社会学部内の役職や教員組織の役割分担や責任の所在も明確になっている。教員組織の編制は、社会学部のカリキュラムにふさわしいものとなっており、大学院教育との連携にも十分な考慮が払われている。教員の年齢分布についても概ね適正である。

教員の募集・任免・昇格に関わる各種規程は整備されており、また、各種規程の運用は適切に行われている。

新任教員の募集については、原則公募方式としていることは高く評価できる。また社会学部のPD委員会は非常に活発に活動しており、社会学部の教員の授業の質向上に対する熱意が感じられる。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

・卒業生、卒業保留者、留年者、休・退学者の状況については、執行部、教務委員会、教授会という三つのレベルで把握し、その内容を共有している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学部（学科）として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S A B

(～400字程度まで) ※修学支援の取り組みの概要を記入（取り組み例：クラス担任、オフィスアワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど）。

- ・1年次の基礎演習において、担当教員が初年次教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。
- ・2年次以降の専門演習において、担当教員が専門教育の観点を中心に学生の修学支援を行っている。
- ・全教員がオフィスアワーを設定し、学生からの希望に応じて修学支援を行っている。
- ・2015年度から「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】 ※箇条書きで記入。

- ・学生の事情に応じた個別的な対応として、演習を通じた学生への働きかけを適宜行っている。基礎演習および専門演習の担当教員が、必要に応じて学生に接触し、学習への動機づけをつくり出すべく対応している。
- ・学部による制度的な対応として、2015年度から「個別学修相談会」を実施している。前年度のGPAを通算して0.8以下かつ進級要件を満たしていない学生を対象として、保証人宛てに面談の通知を行った。2017年度の実績として、6/8から6/16の期間に、16名の学生（7名は保証人も同席）すべてに対して、教員1名と職員1名がペアを組み、個別に履修に関する指導を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 S A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

外国人留学生と教員が一堂に会する「留学生懇親会」を企画することで、修学支援を進めている。外国人留学生が交流

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

して、互いに学生生活を支え合う非公式なネットワークづくりを促すと同時に、教員と歓談しながら様々な修学上の問題を相談できる機会を設けている。2017年度の実績として、6/27に「留学生懇親会」が開催され、60名の外国人留学生とグローバル教育センター委員・執行部の教員が参加した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。

キャンパス全体の組織である多摩学生相談・支援室に学部から学生相談・支援室教員相談員を派遣し、学生の生活相談に組織的に対応している。

学部事務課が随時窓口で学生の生活相談に対応している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部の1年次の基礎演習、2年次以降の専門演習において、担当教員が学生の修学支援を行っているほか、成績不振学生を対象とした「個別学修相談会」も実施しており、適切な修学支援が行われている。外国人留学生については、60名もの外国人留学生が参加するカタチで「留学生懇親会」を開催したことは修学支援の取り組みとして非常に高く評価できる。

学生の生活相談に対しては、多摩学生相談・支援室に学部から学生相談・支援室教員相談員を派遣し、学生の生活相談に組織的に対応しているほか、学部事務課が随時窓口で学生の生活相談に対応しており、評価できる。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。

入門科目や実習科目へのTAの採用を積極的に行っている。また、パソコンや情報機器、各種ソフトの使用ならびにメンテナンスに対応するため、メディア表現実習室に技術スタッフを一部配置している。また、学部独自の教授活動・学習支援制度として、社会学部FD委員会の指揮・指導のもと学習サポーター・大規模授業アシスタント制度を運用している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・社会学部FD委員会資料（学生アシスタント制度に関する規程）

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学部独自の教授活動・学習支援制度として、社会学部FD委員会の指揮・指導のもと学習サポーター・大規模授業アシスタント制度を運用している。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

TAの採用が積極的に行われ、さらには社会学部独自の教授活動・学習支援制度として、学習サポーター・大規模授業アシスタント制度も運用されており、充実した教育環境が整備されていると評価できる。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
---	---

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

多摩キャンパスとして取り組んでいる多摩シンポジウムの運営に学部として委員を出し、支援・協力しているとともに、定期的にその企画を立案している。

大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会に加盟し、それを教育研究に還元する取り組みを実施している。また、いちょう塾(八王子都市大学)の月別公開講座に講師を派遣している。多摩キャンパスに設置されている多摩地域交流センターに学部として委員を出し、地域交流に関する取り組みに協力している。また、グローバル教育センターが進める事業について、学部としてグローバル教育センター委員等を出し、国際交流事業に関する取り組みに協力している。教育研究成果の社会還元方法については、その都度、検討し実施している。

実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度を設置し、学外に開かれた多様な視点に学生が触れられるよう配慮している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2018年度いちょう塾・市民塾への講師派遣について

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

大学や多摩キャンパス全体で取り組まれている学外組織との連携協力や社会貢献活動に委員を出したり、講師を派遣したりしているが、社会学部独自の取り組みはあまり活発ではない印象を受ける。実務家などを講師に招く「ゲスト講師」制度を設置している点は評価できるが、キャンパスの立地の問題はあるものの、一層の取り組みが行われることを期待したい。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
--	---

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。
(～200 字程度まで) ※概要を記入。 社会学部教授会に、学部長のほか、教授会執行部として教授会主任 2 名、教授会副主任 1 名を置き、内規に基づき選任している。 また、社会学部教授会は、社会学部教授会規程ならびに教授会運営に関する内規によって定められた明確な権限や責任等に基づき運営されている。また、社会学部教授会は、原則として月 2 回、年度内に 20 回開催することとしている。
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・社会学部教授会規程 ・社会学部教授会日程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部では各役職の権限や責任が規程によって明確にされており、教授会の定期的な開催をはじめ、規程に則った運営が適切に行われている。

III 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	①2018 年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る (2018 年度～2021 年度) ②2018 年度生の専門教育が本格化する 2020 年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。
	年度目標	①教授会および年 2 回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ②新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。
	達成指標	①教授会・「学科カリキュラム運営会議」などを開催することで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有と改善点の洗い出しを行う。 ②学生に対し、適切なガイダンスを実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ②学習効果を向上させる授業時間外学習の指導のために、シラバスで必要な授業時間外学習を明示する。また、教務委員会・FD 委員会を中心として、授業時間外学習指導の方法について検討する。
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が的確に行われている。 ②シラバスで授業時間外学習の内容が明示されているか。授業時間外学習の指導方法について検討が行われたか。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	・基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		<ul style="list-style-type: none"> 学部教育の到達点となる演習3について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるために、演習3の運営実態を把握する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 演習3の運営実態を把握することで、必要に応じて、演習3の履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させるための提案ができている。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。 入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 入学定員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。 入学センターから入試制度の導入のための情報収集を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学定員比率を堅持できている。 入試制度の導入を検討するための情報を収集できている。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができている。 オフィスアワーが設定されている。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
7	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を着実に実施する。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を実施したか。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加したか。
<p>【重点目標】</p> <p>社会学部にとっては、2018年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。そのために、教授会および年2回開催する「カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生のコース登録前に各学科のコースガイダンスを実施することによって、1年次の学生が新カリキュラムにスムーズに適応できるように修学支援を行う。</p>		

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

社会学部では中期目標、年度目標とも概ね適切に設定されている。2018年度に導入した新カリキュラムについて、2020年度以降に、その教育効果に関する中間評価を行うことを中期目標に掲げていることは高く評価できる。社会貢献・社会連携の分野については、現在行なっている活動を継続するだけ書かれている点が気になる。社会学部は、社会貢献や社会連携に関係する授業科目も数多く開設しているので、社会貢献・社会連携に関してももう少し積極的な姿勢を打ち出すことを期待したい。また教育課程・学習成果の分野では、演習3の履修率と卒業論文の提出率を向上させることが目標として掲げられているが、具体的な数字はあげられていない。すべての目標について、具体的な数字を掲げる必要は全くないが、履修率や卒論提出率のように数字として示しやすいものについては具体的な数字を目標として掲げることを検討してもいいように思われる。

【大学評価総評】

社会学部が2018年度から導入した新カリキュラムは、それまでのカリキュラムよりも順次性・体系性が大幅に向上し、社会学部が掲げる教育理念や目標に適した教育課程・教育内容を実現している。新カリキュラムにおいては、社会学部の科目は「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」の3つの科目群に大別され、この3つの科目群が、「入門期」（1年次）、「能力形成期」（2～3年次）、「総仕上げ期」（4年次）という3つの教育段階に沿って段階的に編成されている。各学科が開設する「学科専門科目」は、「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つに分類され、年次ごとの順次性が明確に示されている。初年次教育や高大連携、キャリア教育にも適切な配慮がなされたカリキュラムとなっており、非常に優れたカリキュラム改革が行われたと高く評価できる。

新カリキュラムに対する学生たちの理解を深めるために、4月の履修登録締め切り前に「教員による履修相談会」を開催したり、秋学期のコース登録前に学科ごとのコースガイダンスを実施したりしており、学生の混乱を防ぎ、新カリキュラムへの移行を円滑なものにするための対策もしっかりと練られている。

カリキュラム改革と連動するかたちで教員人事についても中期計画を策定するなど、カリキュラム改革を軸にして、さまざまな改革が同時並行的に行われており、近い将来に大きな成果が現れることが期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。